

Since 1972.2.24



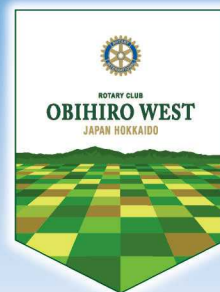
ロータリーは機会の扉を開く

帯広西ロータリークラブ

第2336回例会

2021.3.11

会報



■RI第2500地区テーマ■

ランクアップしましょう

■クラブ・テーマ■

化学反応を起こす出会いの機会を作ろう

会長報告

佐々木 和彦 会長

今日は昨年の3月に起きた、私にとっての事件についてお話しいたします。

私は18年前、ある親子からの依頼により、悩みに悩んだ末、北海道道路整備の社長を引き受けました。儲かっている会社と伺っていましたが、就任してすぐ過去の決算書を精査したところ、実は数年にわたり減価償却をしないで、わずかの利益が出ている様に見せていたのです。良いときもあったのですが、北海道内の同業の中では20位くらい、職員の給与を低くして何とか経営していたと言うのが現状でした。



社長になって2年くらいは会社の中に味方はいませんし、逆に冷たくされ、会社に行きたくないと思う日もありました。そうですよね、どこの馬の骨か分からない人が来て、いきなり社長だと言われてたら、誰だって反発すると思います。会社の改革案を提案して仕事をボイコットされたこともありましたが、しかし頑張っ受注を増やし、社員の待遇を良くし、業界団体ではそれまで理事のほとんどが札幌の業者だったのですが、理事の一人に加えていただき、業界全体のためにも働きました。その結果社員の信用もかちとり、道内の業界では5本の指に入るまで、会社を成長させました。ところが5年ほど前に、私に社長を依頼した、大株主だったお父さんが亡くなり、すぐにお母さんも後を追うように他界されました。その後、会社とはまったく無縁だった娘が過半数の株を相続し、何かと経営に口を挟むようになりましたが、是々非々で対応していました。

そして昨年の3月、新型コロナの緊急事態宣言が北海道で発動された直後ですが、帯広ではまだ発症者が出ていなかったため、本年度三役の森・太田副会長、小野幹事が私の誕生日をお祝いしてくれるという前の日に、弁護士から会社の経営について面談したいので来いという内容の郵便が届き、そういう予感があったので、三役のみなさんに会長どころかロータリーを辞めなければならぬかも？と話をし、驚かれました。弁護士からの話はやはり3月いっぱい社長を辞めてくれと言うことで、受け入れるしかない状況でした。

直後若林会長に、もう一年会長をやっていただく事

になるかも、と相談したことが思い出されます。

ピーク時には1億以上あった借金も、その年の5月でゼロになるので、銀行とお付き合いで2千万借りる約束をしていましたが、退任するので履行できないことを伝えると、市内の後継者のいない企業の社長をしないか？との話をいただき、また友人から新会社を立ち上げるのでその社長を依頼されました。建設業の経験しか無い私にとって、どちらも新たな業種で、一から勉強するエネルギーが、はたして63歳の私にあるだろうか悩んでいるところに、当時の大友ガバナー補佐から、仕事を手伝ってほしいとお誘いをいただき、今までの経験を生かせる同じ建設業、お世話になることになり今に至っています。

会務報告

小野 辰夫 幹事

帯広西RC、3月25日(木)の例会は休会と致します

- ・帯広RC、短縮例会で開催致します。
※3/24(水)、3/31(水)は休会と致します。
- ・帯広北RC、短縮例会で開催致します。
- ・帯広東RC、短縮例会で開催致します。
※3/30(火)は休会と致します
- ・帯広南RC、短縮例会で致します。
※3/15(月)は休会と致します。



2020-2021地区大会が5月29日(日)富良野にて開催されます。参加人数は当クラブは8名が割り当てられていて、参加できない方はZOOM配信にて参加ください。



ニコニコ献金

長平 圭太 親睦活動委員長

千葉 清秀 ロータリー情報委員長
本日担当例会です。宜しくお願いします。

長平 圭太 親睦委員長

ニコニコを発表させて頂きました。



ニコニコ 献金	3月11日	4,000円
	累計	444,000円 (3月11日現在)



Rotary 会長 佐々木和彦 副会長 森 房明 会場監督理事 菊池 俊博 発行：広報委員会
幹事 小野 辰夫 副会長 太田 豊 プログラム委員理事 熊切 宏樹 委員長 松原 宏樹 (副)郷 誠一



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

「アイスホッケーについての情報」



こんにちは、ロータリー情報委員長の千葉です。宜しく願います。

今回はアイスホッケーについての情報と言う事で、ロータリーの情報には関係ないじゃないかと思われる事と思いますが、一つの情報として、日本のアイスホッケー界

の現状を知って頂きたいと思ひ卓話させて頂きます。当クラブにも現役でプレーされている方もいますし、過去にプレーされた方もおられると思ひます。私も30歳までプレーしていました。現在はほぼ毎日清水町御影で、小中学生の指導をしています。

アイスホッケーは縦60m横30mのリンク内でスケートを履き、全身に防具を着用しスティックで硬質ゴム製パックを打ち合い、得点を競うゲームです。スケートから防具・スティックは合計すると10万円~30万円くらいになります。私の息子も中学生でプレーをしています。スティックは年間3本~4本折れてしまいます。

次に日本のアイスホッケー界ですが、ウィンタースポーツであり地域性が強く小、中、高ともやはり北海道のチームが強いのが特徴で、特に昔から実業団チームを抱えていた釧路、苫小牧にある中学校、高校は強いです。ただ近年では、釧路、苫小牧の中学校のトップ選手が白樺学園や清水高校に入学しインターハイ優勝に絡んでくる傾向にあります。優秀な選手が入り強くなり、強いから選手が集まると言った高校野球の強豪校と同じ様な感じになっています。また高校のトップ選手は明治、早稲田、中央、東洋、法政大学の5大学に進学し大学アイスホッケー界をけん引すると言う構図になっています。

現在日本のトップディビジョンはアジアリーグとなっており日本5チーム韓国2チームロシアのサハリン1チームで構成されています。今シーズンはコロナの影響でアジアリーグは開催されていません。代わりに日本5チームでジャパンカップを開催していますが、この緊急事態宣言のためなんとも盛り上がりがないリーグになっています。日本の5チームは苫小牧の王子イーグルス、釧路の東北北海道クレインズ、日光の日光アイスバックス、八戸の東北フリーブレイズ、そして今年度より加入した横浜の横浜グリッツとなっております。

今はアジアリーグとなっていますが、もとをたどれば1966年に発足した日本アイスホッケーリーグが始まりとなり、1966年といえば札幌オリンピックが決まった年でもあり、当初西武鉄道、王子製紙、古河電工、岩倉組、福徳相互銀行、の5チームでリーグをスタートしました。6年後福徳相互銀行が廃部になりましたが、西武鉄道が国土計画と分割し5チームを維持し、2年後十條製紙、5年後岩倉組を雪印が引き継ぎ1999年まで6チーム体制で行われました。親会社の景気もよく観客動員数も多いため、一時はプロ化の話まで出た時期もありました。しかし2000年以降親会社の不祥事や不景気で廃部になり現在の形になっています。今思い返せば1998年・1999年が日本のアイスホッケー界にとって転換期だったと思ひます。1998年に長野オリンピックがあり、報道量も多く、ある程度注目もされた年でもありました。しかしその後が続かなくすべてにおいて失敗に終わりました。1999年からは古河電工アイスホッケー部の廃部をかわきりに、雪印アイス

ホッケー部の廃部。その次に西武鉄道、国土計画も廃部となりました。私も大学4年生の時、古河電工アイスホッケー部に入部予定でしたのでとてもショックを受けた記憶があります。以降2005年以降日本のチームだけではリーグが成り立たなくなり現在の形に至っております。

昨今では日本製紙も撤退しましたし、来年度は王子製紙も撤退し、すべてのチームに特定企業のメインスポンサーが付かない地域密着型のプロリーグとなります。企業スポーツではなくなるのでいっさい甘えが許されない世界になるでしょう。その地域に必要とされない、また存在感がないチームでは年間2億から3億円と言われる運営費も集められなく消滅する事になると思ひます。ただメリットもあり企業の社員として制限される事がなく、プロ選手として自由な行動が出来て、今の時代、ネットの発達力を使い今まででは考えられない様な事もおこるかもしれません。東北道クレインズでは個人スポンサー制度と言うのがあり、選手個人に対してスポンサー料を払い選手のヘルメットに企業名のシールをはりその選手を応援すると言った制度もあります。自分のプレーと行動で給料を稼ぐ、プロとしての自覚も出るでしょうし、責任感も増してくると言ったメリットもあります。帯広出身のアジアリーガーも多くなってきましたので、興味がある方は個人スポンサー制度を宜しくお願い致します。

最後に日本アイスホッケー界の未来ですが、最近では男子ホッケーより女子アイスホッケーの方が盛り上がり上がっています。スマイルジャパンという愛称もありますし、実際世界大会で結果を残しています。過去オリンピックは3回出場していますし、女子には世界で通用する選手も出てきています。また来年の2022年の北京オリンピックの出場も決まっております。強いから国より強化費が出る、強化費が出るから強くなると言った良いサイクルになっているのが現状です。私の娘もアイスホッケーを少年団でやっていますが、約3分の1は女の子で、中には半数以上が女の子の少年団もあります。それだけ女子アイスホッケーが注目されている証拠だと思います。

日本でマイナースポーツが注目されるきっかけは、やはりオリンピック出場が最低条件となっており、1998年の長野オリンピック以降出場権を得られていない男子アイスホッケーは取り残されているのが現実で、現状のままなら当分オリンピック出場はかなわないと思ひますし、マイナースポーツからずっと抜け出せない事でしょう。

ただ一筋の光も見えています。小学校、中学校を卒業した子が北米に海外挑戦する子が多くなりました。10年前までは高校や大学を卒業して海外挑戦となっていました。それが遅い事に気づきはじめて、早い段階から留学する子が増えてきました。実際結果も出てきています。過去日本人がNHLでプレーした選手は現日光アイスバックスのGKの福藤選手一人だけですが、苫小牧出身で小学卒業後海外留学した17歳の安藤優作君が2021年のNHLのドラフト候補にリストアップされ、彼の行動に触発されて早いうちから全国的に海外挑戦する子も増えてきました。この十勝でも数名の挑戦者がいます。この子達が近い将来NHLや他の国のプロリーグに在籍し、もまれ、世界に通用する選手が数多く出て来れば、日本サッカー界がワールドカップ常連になった様に、男子アイスホッケー界もオリンピック常連となり、子供達が憧れるスポーツ選手となる日も来ると思ひます。どうぞ、ご注目お願いいたします。

ご静聴ありがとうございました。

